

ロシアとイギリス

ロシア…南下政策 韓国・満州へ勢力拡大 ☆清と密約(1896)

<例>旅順・大連租借(1898) 1 東清鉄道の建設(中国東北部 1901全通)

→日露妥協の努力…2小村・ウェーバー覚書→3山県・ロバノフ協定→4西・ローゼン協定
しかし、北清事変後も満州から撤兵せず (西徳次郎外相)

日本…2つの外交方針

5 日露協商論 …6伊藤博文・井上馨 7 満韓交換論 (満州→ロシア、韓国→日本)
8 日英同盟論 …9山県有朋・桂太郎・小村寿太郎 イギリスと結んでロシアに対抗
10 1902年 第1次11 日英同盟(日英同盟協約)

(a) 12 特殊権益の相互承認 …英の清に対する、日本の清・韓国に対する特殊権益

(b) 13 他国との交戦→相互に厳正中立 (c) 14 第三国が参戦→援助のため参戦

日露戦争

☆15 非(反)戦論 <例>『16 万朝報』(日刊新聞 黒岩^{るいこう}涙香が創刊)など …世論を動かさず

<社会主義>17 幸徳秋水・18 堺利彦 <キリスト教>19 内村鑑三

のち開戦論へ→3人とも退社 幸徳・堺は20 平民社 創立(『21 平民新聞』)

※反(厭)戦詩<例>22 与謝野晶子 「23 旅順口包囲軍の中に在る弟を歎きて」(“君死に給ふこと勿れ”)

24 大塚楠緒子 「25 お百度もうで」

26 主(開)戦論 <例>27 対露同志会…国家主義団体 近衛篤磨(貴族院議長)・頭山 満ら
東大七博士(28 戸水寛人ら)→29 桂内閣に30 七博士意見書を提出

開戦 仁川沖奇襲攻撃(31 1904. 2/8)→宣戦布告(2/10)→32 旅順攻撃(司令官^{まれすけ}乃木希典 死者1万5千人)

→奉天会戦(3/10 死者4万)→33 日本海海戦(5/27-28)…34 バルチック艦隊を破る(東郷平八郎)

講和 日本 余力なし <例>死者8万8千人 35 17億円の戦費(非常特別税、内債・外国債)

ロシア 革命運動 <例>血の日曜日事件 <アメリカ> 日本の勢力拡大を懸念

36 ポーツマス 条約(37 1905年) ←米大統領38 セオドア=ローズヴェルトの仲介

全権 <日本>39 小村寿太郎 <ロシア> 40 ウイッテ

(a) 41 ロシアは、韓国に対する日本の指導・監督権を承認

(b) 42 旅順・大連 の租借権と43 長春以南の東清鉄道(南満州鉄道)と付属利権を譲渡

(c) 44 北緯50度以南の樺太(サハリン)と付属諸島を譲渡

(d) 45 沿海州・カムチャッカ半島沿岸の漁業権を承認 (→1907. 日露漁業協約)

→46 日比谷焼き打ち事件(1905)…国民の不満の爆発 ☆賠償金なし

講和反対集会が暴動化(首相官邸などを襲う)→戒厳令、軍隊出動→47 桂内閣総辞職

満州(中国東北部)への勢力拡張

1906. ⁴⁸ 関東都督府 の設置(旅順) 長官は陸軍大将か中将

⁴⁹ 大連・旅順 (⁵⁰ 関東州) と南満州鉄道(付属地も)を管掌→1919. 関東庁と関東軍に分離

⁵¹ 南満州鉄道株式会社 (⁵² 満鉄) の設立 本社は大連

⁵³ 長春～旅順間 ⁵⁴ 半官半民 沿線の炭坑・鉱山なども経営

※⁵⁵ アメリカ…満鉄の中立化を主張 <例>⁵⁶ ハリマン計画(1905)…満鉄の日米共同経営案

→日本は拒否 →日米関係の悪化…アメリカで ⁵⁷ 日本人移民排斥運動

→日本、他国との関係を強化 <例>サンフランシスコ日本人学童拒否事件(1893)

イギリス ⁵⁸ 第2次日英同盟(1905)…適用範囲をインドまで拡大

⁵⁹ 第3次日英同盟(1911)…アメリカを同盟の対象から除外

ロシア ⁶⁰ 日露協約(1907)→その後も改訂 (1910, 1912, 1916) } 双方の勢力圏を確認

フランス ⁶¹ 日仏協約(1907) }

【時代別問題に挑戦】 <センター2011年A追試験より>

I ②日本は、北清事変ののちも満州から撤兵しなかったロシアと対立した。

II ③日本の連合艦隊が、日本海でロシアのバルチック艦隊に大勝した。

III ①日本の警察官が、訪日中のロシア皇太子を滋賀県で襲撃した。

ロシアとイギリス

ロシア…南下政策 韓国・満州へ勢力拡大 ☆清と密約(1896)

<例>旅順・大連租借(1898) 1東清鉄道の建設(中国東北部 1901全通)

→日露妥協の努力…2小村・ウェーバー覚書→3山県・ロバノフ協定→4西・ローゼン協定

しかし、北清事変後も満州から撤兵せず (西徳次郎外相)

日本…2つの外交方針

5 _____ …6伊藤博文・井上馨 7 _____ (満州→ロシア、韓国→日本)

8 _____ …9山県有朋・桂太郎・小村寿太郎 イギリスと結んでロシアに対抗

→ 101902年 第1次日英同盟(日英同盟協約)

(a) 12特殊権益の相互承認 …英の清に対する、日本の清・韓国に対する特殊権益

(b) 13他国との交戦→相互に厳正中立 (c) 14第三国が参戦→援助のため参戦

日露戦争

☆15非(反)戦論 <例>『16 _____』(日刊新聞 黒岩^{るいこう}涙香が創刊)など …世論を動かさず

<社会主義>17幸徳秋水・18堺利彦 <キリスト教>19内村鑑三

のち開戦論へ→3人とも退社 幸徳・堺は20 _____ 創立(『21平民新聞』)

※反(厭)戦詩<例>22与謝野晶子「23旅順口包囲軍の中に在る弟を歎きて」(“君死に給ふこと勿れ”)

24大塚楠緒子「25お百度もうで」

26主(開)戦論 <例>27対露同志会…国家主義団体 近衛篤磨(貴族院議長)・頭山 満ら

東大七博士(28戸水寛人ら)→29桂内閣に30七博士意見書を提出

開戦 仁川沖奇襲攻撃(311904. 2/8)→宣戦布告(2/10)→32旅順攻撃(司令官^{まれすけ}乃木希典 死者1万5千人)

→奉天会戦(3/10 死者4万)→33日本海海戦(5/27-28)…34バルチック艦隊を破る(東郷平八郎)

講和 日本 余力なし <例>死者8万8千人 3517億円の戦費(非常特別税、内債・外国債)

ロシア 革命運動 <例>血の日曜日事件 <アメリカ> 日本の勢力拡大を懸念

36 _____ 条約(371905年) ←米大統領^{セオドア}セオドア=ローズヴェルトの仲介

全権 <日本>39 _____ <ロシア> 40 _____

(a) 41ロシアは、韓国に対する日本の指導・監督権を承認

(b) 42 _____ の租借権と43長春以南の東清鉄道(南満州鉄道)と付属利権を譲渡

(c) 44北緯50度以南の樺太(サハリン)と付属諸島を譲渡

(d) 45沿海州・カムチャッカ半島沿岸の漁業権を承認 (→1907. 日露漁業協約)

→46日比谷焼き打ち事件(1905)…国民の不満の爆発 ☆賠償金なし

講和反対集会が暴動化(首相官邸などを襲う)→戒厳令、軍隊出動→47桂内閣総辞職

満州(中国東北部)への勢力拡張

1906. ⁴⁸_____の設置(旅順) 長官は陸軍大将か中将

⁴⁹大連・旅順(⁵⁰関東州)と南満州鉄道(付属地も)を管掌→1919. 関東庁と関東軍に分離

⁵¹南満州鉄道株式会社(⁵²_____)の設立 本社は大連

⁵³長春～旅順間 ⁵⁴半官半民 沿線の炭坑・鉱山なども経営

※⁵⁵アメリカ…満鉄の中立化を主張 <例>⁵⁶ハリマン計画(1905)…満鉄の日米共同経営案

→日本は拒否 →日米関係の悪化…アメリカで ⁵⁷日本人移民排斥運動

→日本、他国との関係を強化 <例>サンフランシスコ日本人学童拒否事件(1893)

イギリス ⁵⁸第2次日英同盟(1905)…適用範囲をインドまで拡大

⁵⁹第3次日英同盟(1911)…アメリカを同盟の対象から除外

ロシア ⁶⁰日露協約(1907)→その後も改訂 (1910, 1912, 1916) } 双方の勢力圏を確認

フランス ⁶¹日仏協約(1907) }

【時代別問題に挑戦】 <センター2011年A追試験より>

- I 日本は、北清事変ののちも満州から撤兵しなかったロシアと対立した。
- II 日本の連合艦隊が、日本海でロシアのバルチック艦隊に大勝した。
- III 日本の警察官が、訪日中のロシア皇太子を滋賀県で襲撃した。